

事業名	ジュエリーミュージアム運営費		
細事業名	ジュエリーミュージアム事業費	財務コード	822503
担当部課室	産業労働 部 地域産業振興 課 宝飾・繊維 担当（内線）	4711	

I 事業の概要

実施期間	始期 H25 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
事業の目的	だれ(何)を対象に 宝石美術専門学校生、県民等
	その対象をどのような状態にして ジュエリー産地やまなしを象徴する多種多様なジュエリーを展示するとともに、職人による実演や体験等により、宝飾について学び、考えることのできる場を提供している
結果、何に結びつけるのか	山梨ジュエリーの魅力を知り、本県の代表的な地場産業である宝飾産業が県民等によりしっかりと認知されるとともに、伝統技術の継承などの人材育成につなげる
事業の内容 主にH29年度	山梨県立宝石美術専門学校附属ジュエリーミュージアム(通称:山梨ジュエリーミュージアム) ○開館時間 10:00~17:30(最終入館17:00) ○休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始 ○入館料 無料(体験工房は有料) ○入館者数 21,361人 ○展示 歴史あるジュエリー、かたちづくりの鉱物、卓越した技術により製作されたジュエリー等を展示 ・企画展示開催数 「山梨ジュエリーの今展示室」 3回 「企画展示室」 10回 ○体験工房 研磨体験及び貴金属加工体験(土・日・祝日) ・体験者数 1,601人 ○実演工房 ・職人の卓越した技術の実演(土・日・祝日)
根拠法令等	なし

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	28年度	29年度		30年度	31年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	開館日数	282日	282日	285日	285日	285日	目標設定の考え方 前年度の実績を参考とした
	常設展示	通年	通年	通年	通年	通年	
	企画展示	11回	11回	13回	13回	13回	
	体験工房	116回	116回	121回	121回	121回	
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	%					データの出典等 ジュエリーミュージアム集計データ
成果指標	入館者数	19,694人	20,154人	21,361人	21,860人	22,371人	目標設定の考え方 入館者数等については過去3カ年実績の平均伸び率から算出
	(県外者数)	10,492人	10,737人	12,014人	12,295人	12,582人	
	(体験者数)	1,321人	1,719人	1,601人	2,084人	2,712人	
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	%					データの出典等 ジュエリーミュージアム集計データ
決算額又は予算額 (千円)うち一財額	6,896		6,424	6,886	6,870	6,870	成果指標によらない成果
所要時間(直接分)	8,290 時間		8,290 時間	8,290 時間	8,290 時間	8,290 時間	宝飾美術専門学校生が秀でた技術やデザインに直接に触れることで制作意欲の向上につながっている。また、職人との交流は、伝統技術の継承など人材育成の場ともなっている。 ミュージアムは小中高校生の課外学習としても多く利用されており、宝飾に興味を持つ入口になるとともに、甲府市中心市街地の賑わいの創出にも貢献している。
所要時間(間接分)							
所要時間計	8,290 時間		8,290 時間	8,290 時間	8,290 時間	8,290 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,130円×所要時間)	17,658		17,658	17,658	17,658	17,658	

III これまでの事業の見直し・改善状況

入館者を増やすための取り組み
・展示企画の工夫や広報等による積極的な情報発信、県立美術館等とのイベントの共同実施(スタンプラリー等)
・記念グッズの配付、無料情報誌「るるぶフリー」への掲載、ラジオでのPR、観光部のホームページや観光パンフレットへの掲載等

IV 活動量と成果の判断(平成29年度の業績評価)

(1)事業は予定された活動量を上げているか(「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H29年度活動指標の達成率		開館日数、常設展示、企画展示、体験工房については、予定どおりの活動量が得られた。
	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2)事業は意図した成果を上げているか(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記載すること
H29年度成果指標の達成率		入館者数の合計は目標20,154人に対し、実績は21,361人であり、達成率106.0%である。宝石美術専門学校生の利用や小中学生の体験学習により、技術力向上や教育の場として活用され、本県のジュエリー産業の伝統技術の継承など人材育成につながっている。
	b	また、企画展示において、カラストーンにフォーカスしたり、地域ブランドであるKoo-fuの歴史を振り返るなど、様々な切り口から宝飾の持つ魅力をアピールする工夫を行い、利用者の理解や新たな価値の創造につながっている。その他、夏休みの万華鏡づくりの製作体験、県内施設と連携したスタンプラリーへの参加、甲府市の小江戸甲府祭りとの連携、ゆかた着用の入館者に記念グッズの配付や、フリー観光情報誌である「るるぶフリー」への掲載などが入館者の増加につながり、中心市街地の活気や賑わいの創出にも寄与している。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

V 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目
有	意図した成果はほぼ上げているが、今後は更に、宝石美術専門学校の附属施設としての活用方法を検討し、一般県民や業界関係者、国内外からの観光客等への幅広いアピールの機会をとらえ情報発信を一層行う必要がある。 具体的には、学生主導による企画展示や来館が少ない大学生などへSNSによる発信などを検討。また、オリンピック・パラリンピックを契機に入館者増を図るため、観光部との連携を強化していく。	m

・「IV以外の判断項目」の欄

a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説明	IV以外の判断項目
有	意図した成果は上がっており、事業を継続することが有効である。 しかし、今後は、更に、人材育成の場として活用の幅を広げるとともに、認知度の向上に努めていく。 具体的には、宝石美術専門学校の学生の発表の場として活用するほか、小中学生などの若年層や外国人観光客の来館を促すため、学校訪問やSNSによる発信、観光部との連携強化を行う。また、引き続き、県内外で活躍する作家の作品展示も行っていく。 なお、県が所管しない業界団体が行う職人派遣に関する意見は、業界団体にその旨を伝える。	m

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

VI 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 ※「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	今後、アドバイザーの意見を踏まえ、宝石美術専門学校の学生が授業で制作した作品の展示やリニューアル予定の「富士の国やまなし」観光HPにおける観光部署との連携、企画展のテーマに応じた県内外で活躍する作家の作品展示など事業運営に努めていく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名: 地域産業振興課

細事業名: ジュエリーミュージアム事業費

調書番号: 6

事業の内容を 細分化した 業務名	具体的な業務 プロセス(手順)	業務の 時期 (フロー)	H29 所要 時間 (h)	H30 所要 時間 (h)A	H31 所要 時間 (h)B	縮減等 B-A	具体的業務の 見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 運營業務(庶務)	館内の庶務・施設管理	通年	1,080	1,099	1,099	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	ホームページ管理・更新、広報事務	通年	1,046	1,048	1,048	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
						0		
						0		
	(小計)		2,126	2,147	2,147	0		
2 企画・展示	展示企画	通年	455	455	455	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	展示物の展示・搬出入・資料作成	通年	553	540	540	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	体験事業	通年	1,565	1,564	1,564	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	展示説明	随意	126	126	126	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	調査・教育普及	通年	270	270	270	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
(小計)		2,969	2,955	2,955	0			
3 受付・案内・展示物監視	受付・案内	通年	1,614	1,609	1,609	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
	展示物監視	通年	1,581	1,579	1,579	0	なし	適正かつ効率的に処理されている
						0		
						0		
(小計)		3,195	3,188	3,188	0			
所要時間 (計)			8,290	8,290	8,290	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「Ⅱ 事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)